

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

第2535302号

(45)発行日 平成8年(1996)9月18日

(24)登録日 平成8年(1996)6月27日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 2 F 11/12	Z A B		C 0 2 F 11/12	Z A B Z D

請求項の数4(全 3 頁)

(21)出願番号	特願平5-144431	(73)特許権者	590005999 建設省土木研究所長 茨城県つくば市大字旭1番地
(22)出願日	平成5年(1993)5月25日	(73)特許権者	000173810 財団法人土木研究センター 東京都台東区台東1-6-4
(65)公開番号	特開平6-328100	(73)特許権者	000176785 三菱建設株式会社 東京都中央区日本橋本町3丁目3番6号
(43)公開日	平成6年(1994)11月29日	(73)特許権者	000000549 株式会社大林組 大阪府大阪市中央区北浜東4番33号
		(74)代理人	弁理士 澤木 誠一 (外1名)
		審査官	石井 淑久

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 粘土の袋詰脱水方法

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 高含水比状態の粘土を入れた透水性の細長い袋を左右に一段に並べる工程と、この際互いに隣接する袋の上面間に袋に沿って形成される略三角形形状断面の空間内に透水層を形成する工程と、この一段の袋の上

に上記透水層を中心として他段の同様の袋を左右に並べる工程と、以下この工程を繰り返すことを特徴とする粘土の袋詰脱水方法。

【請求項2】 上記透水層が砂層より成る請求項1記載の粘土の袋詰脱水方法。

【請求項3】 上記透水層がプラスチックボードより成る請求項1記載の粘土の袋詰脱水方法。

【請求項4】 上記透水層が厚い不織布より成る請求項1記載の粘土の袋詰脱水方法。

【発明の詳細な説明】

2

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は粘土の袋詰脱水方法、特に高含水比状態の粘土を透水性の袋に入れて速やかに脱水せしめるための方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来高含水比状態の粘土、例えばヘドロの脱水処理方法としては特開平2-157099号に示されているものがある。このような方法においては水分のみを透過せしめる不織布材から成る脱水用シートを袋状に成形して構成されるヘドロ処理用袋にヘドロを投入した後、該袋の口を縛り、ヘドロが入った当該袋を放置するようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】図2に示すように高含水比状態の粘土1を透水性の袋2に入れると、袋2が独

10

3

立している場合、即ち一つの場合には、粘土1内の水は袋2を構成する透水性の布を通過して外部へと排出される。しかしながら図4に示すように筒状で、細長い袋2を積み重ねる場合には、積み重ねた袋2が互いに密着するため、粘土1から絞り出た水は袋2を構成する布自体の断面内を通過して外部へと排出されることになる。図3において矢印は水の流れを示す。

【0004】しかしながら、袋2を構成する布は薄く、断面積が小さいため、袋2が長い場合には排出水の速やかなる流出に支障が起り、即ちウエルレジスタンスが大きくなり、袋2の中央部で水の排出に伴う沈下が遅れるという危険性があった。また、袋を積んだ際に、上段の袋の中央部が下段の袋の互いに隣接するもの間に形成される空間内に極端にもぐり込み、このもぐり込みによって上段の袋が破断するおそれがあった。

【0005】本発明は上記の欠点を除くようにしたものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の粘土の袋詰脱水方法は、高含水比状態の粘土を入れた透水性の細長い袋を左右に一段に並べる工程と、この際互いに隣接する袋の上面間に袋に沿って形成される略三角形断面の空間内に透水層を形成する工程と、この一段の袋の上に上記透水層を中心として他段の同様の袋を左右に並べる工程と、以下この工程を繰り返すことを特徴とする。上記透水層は砂やプラスチックボードや厚い不織布で構成される。

【0007】

【実施例】以下図面によって本発明の実施例を説明する。

【0008】本発明においては図1及び図4に示すよう\*

4

\*に、高含水比状態の粘土1を入れた細長い袋2を左右に一段に並べ、この際、互いに隣接する袋の上面間に袋2に沿って形成される略三角形断面の空間内に透水層3を形成せしめる。

【0009】このような透水層3は、例えば①砂層で形成する、②プラスチックボードを置いて形成する、③断面の厚い不織布を挟んで形成することが考えられる。

【0010】次いで、同じく粘土1を入れた細長い袋2を上記透水層3を中心としてかぶせてこれらを一列に並べ第2段とし、以下上記工程を積層された袋が所定の高さまで繰り返すようにする。

【0011】

【発明の効果】本発明方法は上記のとおりであるから、上記透水層3が排水層となり、袋2からの水は布自体の断面内を通らずに上記透水層3を介して流れるようになるから、袋から均一に粘土の水を速やかに排出できると共に、上段の袋が下段の袋の互いに隣接するもの間に形成される空間内に極端にもぐり込んで破断することを未然に防止できる等大きな利益がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明方法の説明用斜視図である。

【図2】透水性の袋に高含水比状態の粘土を入れた状態の説明図である。

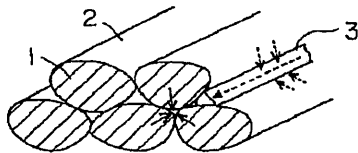
【図3】図2に示す袋を積み重ねた状態を示す説明図である。

【図4】本発明方法の説明用断面図である。

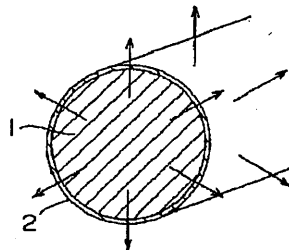
【符号の説明】

- 1 粘土
- 2 袋
- 3 透水層

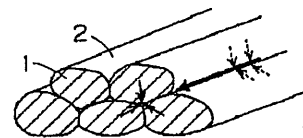
【図1】



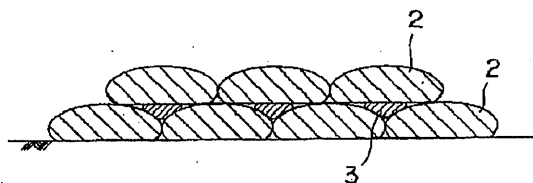
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

- |          |   |         |   |
|----------|---|---------|---|
| (73)特許権者 | 000000240<br>秩父小野田株式会社<br>東京都港区西新橋二丁目14番1号  | (72)発明者 | 一柳 演<br>東京都中央区日本橋本町3丁目3番6号<br>三菱建設株式会社土木本部内     |
| (73)特許権者 | 000160784<br>株式会社クボタ建設<br>東京都中央区新川一丁目8番8号   | (72)発明者 | 串間 正敏<br>東京都千代田区神田錦町3丁目20番1号<br>株式会社大林組土木技術本部内  |
| (73)特許権者 | 000166627<br>五洋建設株式会社<br>東京都文京区後楽2丁目2番8号  | (72)発明者 | 古性 ▲隆▼<br>埼玉県熊谷市月見町2丁目1番1号 秩父セメント株式会社中央研究所内     |
| (73)特許権者 | 000112093<br>ヒロセ株式会社<br>大阪府大阪市西淀川区中島2丁目3番87号  | (72)発明者 | 宮川 恒夫<br>茨城県稲敷郡新利根村大字中山字大久保1245 クボタ建設株式会社技術研究所内 |
| (73)特許権者 | 000175021<br>三井石化産資株式会社<br>東京都文京区湯島3丁目39番10号  | (72)発明者 | 新舎 博<br>東京都品川区東大井1丁目11番25号 五洋建設株式会社技術研究所内       |
| (72)発明者  | 三木 博史<br>茨城県つくば市大字旭1番地 建設省土木研究所内  | (72)発明者 | 相原 啓一<br>東京都江東区木場2丁目17番12号 ヒロセ株式会社補強土事業部内       |
| (72)発明者  | 山田 哲也<br>茨城県つくば市大字旭1番地 建設省土木研究所内  | (72)発明者 | 関口 昌男<br>千葉県佐倉市大作2丁目4番2号 小野田セメント株式会社中央研究所内      |
| (72)発明者  | 千田 昌平<br>東京都台東区台東1丁目7番2号 財団法人土木研究センター内  | (72)発明者 | 近藤 誠宏<br>東京都文京区湯島3丁目39番10号 三井石化産資株式会社内          |
| (56)参考文献 | 特開 昭53-43945 (JP, A)<br>特開 平4-350000 (JP, A)<br>特開 昭64-66311 (JP, A)<br>特公 昭58-54207 (JP, B2) |         |   |